

論文の内容の要旨

論文題目 有機農業の発展と有機認証システムの制度化に関する研究

氏 名 大山 利男

世界各地で展開されるようになった有機農業は、その多くが何らかの社会的・思想的バックボーンをもった「運動」として始まっている。とくに 1970 年代以降の有機農業運動にほぼ共通することは、その動機として、農業者が環境保全的で健全な農業生産を実践したいと考えるようになったこと、また安全な食品を求める消費者が増えて有機農業の広がりとも呼応したこと、その他の社会運動とも接点をもつ場合が少なくないこと、などである。ところで、有機農業はひとつの産業としても発展してきた。一部の有機農業者は、有機農業を生産技術的、経営的に成功させており、それを基礎として「有機」の食品加工業、流通業等が発展するようになった。このような有機農業の「産業化」の進展は、有機セクターと呼ばれる新たな一連の産業組織群を形成している。有機農業の産業化は、おおむね欧米諸国を中心に 1980 年代から始まり、90 年代に本格化したといえる。また、このような有機農業の発展、有機セクターの成長局面において、有機認証システムは非常に重要な役割を果たしている。

本稿の目的は、上記の実態をふまえて、とくに有機認証システムをめぐる動向と論点について理論的に考察することである。また事例として、アメリカ、ドイツ、スイスにおける有機セクターおよび有機市場の展開状況を概観するとともに、各国の有機認証をめぐる論点について検討することである。有機認証は、一方でシステムとしての国際標準化が進展しているが、他方で有機農業や有機市場は地域的に多様な展開をみせている。

まず、有機認証システムの展開過程と特質に関するおもなポイントはつぎのようなことである。

第 1 は、国際的にみると、有機認証をめぐる機能分化と組織分化が進展していることで

ある。さまざまな団体・組織が有機認証を行っているが、有機認証システムはもともと民間の「有機農業団体」によって開発され、運用されてきた。ところが有機認証は、本来的に第三者認証を指向する性格を有していたために、社会運動や共同販売事業を行っていた有機農業団体から、認証活動は機能的にも組織的にも分離される傾向にある。したがって従来の有機農業団体とは別に、有機認証を専門に行う「有機認証団体」や検査を専門に行う「検査機関」が設立されている。

第2は、民間において取り組まれてきた有機認証は、1990年頃より法的に補完されるようになったことである。法的根拠をもつ「有機規則」は、第一義的には有機表示規制としての役割を果たすが、一部では民間の有機認証プログラムに代替するケースが現れている。このことは、従来の有機認証ロゴの表示のあり方にも影響を与えている。

第3は、有機認証システムのグローバル化が進展していることである。民間の国際組織であるIFOAM（国際有機農業運動連盟）の「基礎基準」や、国際政府機関であるコーデックス委員会の「有機ガイドライン」は、有機基準の国際標準化を促進しているといえる。また、有機認証団体間で行われている有機認証の「相互承認」や、IFOAMですすめている「認定プログラム」は有機認証システムの国際標準化、グローバル化の進展を示すものである。さらにヨーロッパ諸国に本部を置く有機認証団体や検査機関の中には、有機認証・検査事業を多国展開しているケースも現れている。

また、アメリカ、ドイツ、スイス各国における有機農業・市場の展開状況と有機認証をめぐっては、つぎのような論点がある。

まずアメリカでは、有機農場のなかでも一部の大規模農場への有機生産の集中化が進展している。これは、大多数の有機農場が小規模生産・小規模販売の経営であることを意味しているが、これらの小規模農場の有機認証割合は極端に低下傾向にあるという問題が生じている。小規模な有機農場ほど、認証費用に見合った利益を見いだせないために、有機認証からドロップアウトしているのである。

またドイツは、有機農業の歴史が古く、さまざまな有機農業団体が活動してきた。それぞれ独自の認証プログラムと有機表示によって有機製品の販路を開拓してきたが、その一方で、伝統的な有機専門の流通チャンネルと自然食品店が支配的なままであった。そのために、有機認証・表示の統一化がなかなか進展しなかったという経緯がある。

スイスは、国内の食品小売市場が寡占状態にあるため、有機製品の販売・表示は小売業界の二大業者の影響を大きく受けている。有機認証とラベル表示は、小売業者の販売戦略・ブランド戦略とも重なっており、有機製品のほとんどがスーパーマーケット・チェーンを通じて販売されているのである。なおドイツ、スイスとも有機農地面積割合の高い国であるが、これは80年代から展開されてきた有機農業への転換支持政策に負うところが大きいという点で共通する。

本稿の最後では、有機市場と有機認証システムとの関係性について検討している。有機認証システムが、市場（マーケット）によるプレミアムによって成り立つシステムであること、したがって有機認証費用の負担のあり方が一方で問題となることを指摘している。